令和５年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
1 総合学科の特長を活かし、ＧＩＧＡスクール構想を踏まえた、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個に応じた進路実現を図る。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	進路指導 教務	【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ｱ)☒くあてはまる (ｲ)☒やあてはまる (ｳ)☒まりあてはまらない (ｴ)☒てはまらない	(ｱ)＋(ｲ)の％ ９０％以上　A ８０％以上　B ７０％以上　C ７０％未満　D C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒・保護者)で調査する。	生　徒　９１．７％ A 保護者　９３．９％ A	１年上級学校見学会・企業見学会・進路ガイダンス、２年インターンシップ・能美市企業ガイダンス、３年就職・進学合同説明会等、生徒に対し、進路を考える上で参考となるであろう様々な機会を提供してきた。また保護者にも、行事や説明会への参加を積極的に呼びかけた。そのことが、家庭全体で進路について考えるきっかけにもなったと思われる。次年度に向けて行事内容を見直し、さらに生徒に役立つものに改善していきたい。
	② 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	教務	【成果指標】 授業改善をとおして分かりやすい授業を実践し、学習内容の理解度と達成感を高める。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A　９０％以上 B　８５％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	生徒による授業評価アンケートで調査する。	９３．１％ A	前回調査の94.0%からは微減となったが、高い水準を保っている。別項目の「先生は熱心に授業を行っている」(95.1%)と合わせて、教師と生徒の良好な人間関係があるように思う。年度２回の調査終了後、各教員に講座別の結果も知らせ、課題を考え、改善の方策を練り一定の書式で提出してもらっている。これは授業改善の一助になっているように思う。が、一方でわずかにでもいる「そう思わない」生徒の個別の悩みにも対応していく必要がある。
	③ GIGAスクール構想に則り、従来のICT活用に加え、今年度１人1台端末が整備されるChromebookを活用した授業 の在り方について研究を進める。	教務	【努力指標】 学習効果を高めることを目標に、活用方法について実践研究を進め、Chromebookを使った公開授業を実施している。	年に２回以上Chromebookを使った公開授業を行った教員の割合が A１００％以上 B　８０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（教員）で調査する。	９２．３％ B	昨年度に比べ、4.9%の減少であったが、Chromebookの活用が定着し、公開授業だけでなく普段の授業においてもChromebookの活用場面が見られるようになった。次年度については、活用の回数だけでなく活用方法にさらなる工夫を行い、質的な深化が求められる。
	④ 個別進学指導や朝学習（マナトレ）、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 各学年	【成果指標】 ア 国公立大学進学者数が、５名以上となっている。 イ 私立大学および看護・医療系上級学校進学者数が30名以上となっている。 ウ 就職内定率が、100％となっている。	ア・イ・ウの３指標のうち A　３指標すべてを達成 B　２指標を達成 C　１指標を達成 D　３指標とも達成できず	C、Dの場合、改善の検討を行う。	３月に集計する。	C	国公立大学合格者は２名、私立大学および看護・医療系上級学校進学者は１８名、就職内定率は100％であった。就職目標は達成できたが、進学は目標に遠く及ばなかった。 生徒数減少に伴い、４年制大学進学希望者の数自体が減っている。指標を現実に即したものに見直すとともに、できるだけ進学に目を向けさせる働きかけをしていく必要がある。

学校関係者評価委員会の評価	・生徒や保護者の学校評価は全体として高い。生徒数が減少しているため、今後は特進コースに力を入れるなど、より進路実現に力を入れていってほしい。 ・DX化を進め、生徒の学びや進路選択において個別的対応を深めていってほしい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒減に伴い、進学希望の生徒の総数は減少しているが、その分チューター制をとおして教員による個別指導を充実させていく。 ・Chromebookの活用が定着してきており、校内のDX化についても施設設備を充実させ、生徒の学力向上に向けて活用方法を工夫していく。

令和５年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
2	成年年齢の引下げを踏まえ、授業及び部活動や体験活動を柱として、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等でしっかりと挨拶ができるよう指導を行う。	生徒指導 各学年	【成果指標】 生徒・保護者・教員が「生徒は自ら進んで挨拶ができる」と評価している。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が生徒・保護者・教員のうち A　３者とも８０％以上 B　２者が８０％以上 C　１者のみ８０％以上 D　全て８０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、保護者、教員)で調査する。	生　徒　８２．３％ 保護者　８４．４％ 教　員　６２．５％ B	生徒、保護者の集計結果は８０％以上であるが、教員が62.5%と低く昨年度（71.9%）よりも低い結果になった。朝の登校指導では挨拶できる生徒は増えてきたと感じるが、学校の中で、自発的に明るく挨拶できる生徒はまだ多いと言えないことが原因と考えられる。 教職員から生徒に対して積極的に挨拶したりコミュニケーションを図ることによって、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、自ら進んで挨拶できるよう学校全体で取り組んでいく。
		② 成年年齢引き下げによる法律改正について具体的な事例を示し理解できるよう指導する。	SCH推進室 各学年 総務	【努力指標】 教師が生徒に、成年年齢引き下げについて授業や集会等で指導している。	成年年齢引き下げについて授業や集会等で指導した教師の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教師)で調査する。	８１．４％ B	昨年同期比10ポイント増であった（71.4%）。昨年度４月より成年年齢が引き下げられたことに伴い、地歴公民科・保健体育科・家庭科を中心に教科指導の中で成年年齢引き下げについての教材を取り扱ったほか、進路指導においてもインターンシップ・企業ガイダンスなどの取組において成年年齢引き下げを意識した指導を行った。次年度も教科指導に加え、各種集会等の取組を通して将来の社会人として成年の責任を自覚させるとともに、消費契約などにおいて自らの権利を自分の力で守る意識を高めていきたい。
		③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	SCH推進室	【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組み努力することを通して、満足感や達成感を得ている。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（生徒）で調査する。	８４．１％ A	昨年同期比２ポイント増であった（82.1%）。コロナウイルス感染症の影響がなくなりつつあり、諸大会が開催されたことから、評価が高くなったと考えられる。 生徒数減の影響で、部員数の少ない部が増えてきている現状にあっても、少人数への手厚い指導や広い校舎環境を活用することにより、普段の練習や大会での成果などで満足感が得られるよう、さらなる工夫を図っていきたい。
		④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	生徒指導	【努力指標】 いじめの未然防止に取り組み、発生時には迅速な対応をしている。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A　１００％ B　９０％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価（教員）で調査する。	９３．７％ B	今年度は１件のいじめを認知した。管理職、担任、学年団、生徒指導が連携し、いじめ問題対策委員会を開き、迅速に対応できた。毎学期行っているいじめアンケートでは、「今はいじめられていないが過去にはある」と書いている生徒もいて、観察や面談を通して注意を払っていきたい。全体に対しては「インターネットトラブル教室」や「いじめ防止標語」の作成、「防犯教室」などを通じていじめは絶対にダメであることを訴えた。今後も様々な機会を捉え、指導していきたい。 今後もいじめは必ずあるものと認識し、いじめを見過ごしてしまったり、教員が一人で抱え込むことのないように、些細なことでも情報を共有するとともに、発生時には迅速かつ適切に対応する。

学校関係者評価委員会の評価	・チームスポーツの部活動で人数が減っているのは残念である。いじめやトラブルの未然防止もしっかり行ってほしい。 ・生徒も廊下で挨拶をしてくれる。社会人としての基礎的なマナーは大切なので、厳しくても納得感のある指導をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・部活動数については見直しを行い、部活動や学校行事等を通じてコミュニケーションの場を増やし、生徒同士の活発な交流を促していく。 ・挨拶や基本的習慣の確立を本校生徒指導の土台として全教職員の共通理解のもと、生徒の成長を促していく。

令和５年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立寺井高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
3 ＳＣＨ（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進するとともに、生徒が主体的に地域の活性化に貢献する資質・能力を育む。	① 地元自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	SCH 総務	【成果指標】 生徒が地域の行事や社会貢献活動など地域と連携した活動に積極的に参加している。	地域の活動に参加した生徒の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	それぞれの活動後に生徒にアンケートをとる。	８５．６％ A	昨年同期比2.8ポイント増であった（82.8%）。評価が上がった要因としてコロナ感染症の制限がほぼなくなり様々な行事ができるようになってきたからであると考えられる。１年生は４月の遠足における根上海岸の清掃活動、２、３年生は部活動、イーグル隊、インターアクトなどの校外での体験活動やオンラインを通じた外部との交流という新しい手法にも慣れてきていることもうかがえる。 ＳＣＨ（Super Community High school）という名前が生徒にも浸透して、地域の学校という意識が生徒の中に醸成しつつあるものと考えられる。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務 SCH	【満足度指標】 本校の広報活動を通して、保護者が本校の教育活動や取り組みを理解し、満足している。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(保護者)で調査する。	保護者　９２．４％ A	昨年の評価より1.7%アップし、92.4%であった。ホームページのアクセス数は１日平均2,500件前後であり、前の年度より700件ちかく増え、関心の高さがうかがえる。特に11月には、最大14,673件となっている。学校祭、部活動の結果、地域との交流等について、積極的に情報公開を行ってきたことによると思われる。行事のお知らせだけでなく、学校の様子が伝わるよう、毎日配信をしていることが要因と考える。今後も継続していきたい。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	教頭 各課主任 学年主任	【成果指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高め、より一層の時間外勤務の削減を図っている。	時間外勤務が月４５時間以上であった教員の月平均人数が A　　５人未満 B　１０人未満 C　１５人未満 D　１５人以上	C、Dの場合、改善の検討を行う。	教員の勤務時間記録で調査する。	８．７人 B	時間外勤務が月45時間以上であった教員の数の平均は、昨年度最終評価の11.1人と比べて大きく減少が見られた。教員アンケートにおいても、タイムマネジメントの意識は昨年度と比較すると82.6%から93.7%と増加している。 コロナウイルス感染症が５類に移行し、学校行事等もコロナ以前に戻っていることから、特定の教員に負担がかかったり、多忙感が増加しないよう、管理職や主任が業務の進捗状況に気を配り、業務の平準化を図ることを心掛ける。

学校関係者評価委員会の評価	・能美市唯一の高等学校として、地元に密着した活動を行っている。 ・ホームページでの広報の効果は上がっていると思うが、卒業生や生徒のコメントがもっと見られると親近感が得られるのではないか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・能美市との連携の質を高め、スーパーコミュニティハイスクールとして地域の活性化にも一躍を担っていく。 ・ホームページでの広報については、学校行事だけでなく、日常の学校生活も取り上げ、できるだけ多くの生徒の声を掲載していきたい。